

聯隊機密第三八號

聯合艦隊訓令

三八年三月四日
於C地克三號

一、最近情報ニ依テ敵艦隊中ニ運搬水雷ヲ有セル
 艦船アルニ其爆沈時間ヲ推測スルハ我海軍ノ如ク
 攻撃的ニ使用スルニアラスシテ防禦的ノモノナルカ
 如ク免ル角對敵上之ニ注意スルヲ要ス、

二、又敵ノ諸艦ハ其艦尾ニ機械水雷落下装
 置ヲ有スルヲ推ストキハ我追撃手ノ為メ敗走スル
 際等ニハ如婦ハス機械水雷ヲ投下スルヤモ計リ
 難シ仍テ追撃手等ニ免ラセ敵ノ航路ニ
 入ラサルヲ可トス而シテ敵陣時ト其他トシテ
 間ハス橋樑隘橋ニ專ラ前方ノ見張りニ任ス
 專任ノ將校若ハ下士ヲ撰定シ置ラコトヲ要ス

三、敵艦隊ノ病院船ハ軍事通信等ニ使用セル
形跡アリ、乃チ今後之ニ會スルトキハ容赦ナク拘引シ
充令船内ノ取調ハ苟ク健康ナル戰闘員
兵器若ハ軍用信号書、暗号電信書其
他軍用書類等ヲ有スルヲ発見セル之ヲ口實トシテ
拿捕スルヲ要ス、

四、敵艦隊ノ附近ニ在ル中立國船舶ニシテ現敵
艦船ニ軍需ヲ供給シウアルヲ目撃シタルモノハ
敵艦ノ機護ノ下ニアルモノハ容赦ナク撃沈シテ
可ナリ又中立國船舶ヲ臨検スルニ当リテハ時
間ニ顧慮セズ検査ヲ嚴重ニシテ假借スル處
ヲ探索シ拿捕ノ目的トシテ其口實ヲ発見
スル努力ハシ、密航船等ハ初ナリ拿捕スル

0438

ルノ手紙ヲ盡シテ飛紙セルモノ多ク其口實
 ヲ飛見スルコト頗ル難キモノト覚悟セザル可ラス
 五 我海軍信号書ノ一旗及二旗信号中ノ敵情
 其他對敵行動等ニ就キ簡便必要ナル信文
 考案アルトモ平時之ヲ使用スル機会少キヲ以テ
 往々之ヲ使用スル能ハサルコトナリ故ニ主務カ將校
 ヲシテ之ヲ熟讀時記セシメテ緩急實用ニ應ス
 ル如クスルヲ要ス

聯合艦隊司令長官 東郷平八郎

海軍

0439

五月五日 金曜

午前晴 午後雨

区々風力一乃至二

鎮海港

新 七五五

嚴島丸より石炭搭載ヲ始ム

全 八四〇

右終了次ヲ掃除洗濯

午後 五三〇

内膳砲射撃 装填法練習

夜間八直哨兵

石炭搭載成績表

成績順 隊人員

開始時刻

終了時刻

所要時間

搭載額

全上

隊平均

三 二六八

七五五

三八

三八分

六〇ト

九四七ト

二 三六三

全右

三八

三三介

全

一〇九一

四 四〇七

全右

四〇

四五介

全

八〇〇

一 五七〇

全右

八二一

二六介

全

一三八五

四三三ト

海軍

0440

五月廿七日 新風雨強烈偏南風力五乃至七。

午後晴曇。南西風力一。

鎮海港

新四五日。南々東風強吹丸船鎖鎖八節。延

改鑑矣火此時千早船引多本艦。

近寄り来レテ認メ岩港用意ナシ接觸

應ニ準備ヲナセシテ千早洩力ヲ用ヒテ

岩艦セルタメ乗事ナラ得タリ。

午後一一五。副長講話。天候静穏。復ニ改鑑

埋火。

全一一〇日。頃々濃密ナク霧粉籠来ス。

夜間八直哨兵。

海軍中士計中島廣夫退艦。

五月七日 日曜 午前霧 午後晴 区々風力乃至一

鎮海港

午前六、三〇、濃霧未襲 咫尺ノ辨セズ

全八、一五、雜業

全九、〇八、霧晴

午後 入浴 休憩

夜間八面噴火

海軍

0443

五月八日 月曜

午前晴 午後曇 西風力一

鎮海港

午前九三五

合戦準備

全一〇一八

新劇操練

砲台操練

一番分隊防火

防火操練

全一一三五

開散

午後一一三

准士官以上 艦長訓示 其要領次

ノ如シ

全一五〇

各分隊分隊教育

全五二二

合戦準備復旧

全五五二

右路 軍医長 衛生講話 了

夜間八直哨兵

海軍中士計高橋幸郎乗艦

海軍

0444

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0445

五月八日艦長訓示

準備以上

於後甲板

鎮海灣

一 戦闘準備に關する希望

一 本日より後米海軍のシテ令するに戦闘用意、令ツ撥し合戦準備、
 号音ツ以テ之ニ代エルト既副長ノ示モ如シ蓋シ今日ノ戦闘用意ノ程
 度が田島沖、在ル時ト今ト於テ大ニ相違ツ生ゼルベキナリ該時晝間毎日
 探照燈ヲ格納シ防彈用釣床ニ毎朝之ヲ備エ其他戦闘用意ハ
 殆ド完成ノ有様ナリシガ今則チ然ラズ幾クモ平常ノ状態ニ在ルヲ以テ
 戦闘用意ト稱スルニ大ニ合戦準備ニ近シ又号音ノ言令ニ比レ軍達力
 大ニシテミナス員ノ勤作ヲシテ敏捷活潑ナラシム事勅カスモ是ト亦職ガ
 戦闘用意ノ言令ツ合戦準備ノ辨音改メタル所以ニシテ結果ノ良好
 ナル可キ事ヲ確信ス又今敵艦隊米航ノ報ニ接ス時ハ板橋シテ直ニ
 合戦準備ツナシ湾口ヲ出ヅルハ直ニ彈藥裝填ノ外凡テ戦闘ノ号
 音ニ依リ準備ツ整ヘテ然ル可キナリ是故ニ後米戦闘用意ヲ行ヒ

タル準備方、水ノ配付等、自今戦時ハ号音ニ依ルコト、ナリ
 一、戦闘對ニ準備トシテ、會近設備シテモ、外愈々敵ト砲火ヲ交ヘ雷
 戦數合ハ時々考フルハ猶ホ多ク、右ニ可クテ、投擲ニ暇アラスレ
 宜、無制限ナレバ、機械水雷對ニ設備コトナリ、本來ハ造船術ハ
 備スレトモ、人カノ及ブ限リ、手限ラ施スル可ク、殊ニ機雷部於テ
 然リトモ、本艦ニ、機関長ノ盡力、修防水扉、防水蓋ノ支柱、浸水
 ノ際、モルトン、係、駆水法等種々、設備アリ、持テ、後藤中機雷士が侵
 水ノ種々、場合於テ、艦体ガ前後、浮沈シ、或ハ左右傾斜スル等、量
 ヲ弄出シ、ツラ表ヲ作シ、ガ如キ本艦ノ、各々、戦海中、右ノ尤モ必要ナ
 モ、ナルコトヲ信ズ、故、如ク、造船、者初作シテ、然ル可ク、ヤリ、ナレバ、機械水
 雷、并ニ、願念、今日ノゴト、ク、ナリ、シ、ラ、ホ、ダ、ニ、ア、リ、シ、モ、今、後、藤、中、機
 雷、士、ニ、ヨリ、テ、是、レ、カ、編、出、シ、見、ル、本、職、ノ、頭、ニ、満足、ス、ル、所、ニ、テ、大、氏、ノ、勞、ヲ
 多トス、ト、共、ニ、喜、ウ、茲、ニ、諸、君、ノ、照、會、ス、ル、價、値、アリ、又、之、レ、ヲ、長、官、ニ、進

達とスラ一板ノ参考ニ當セルトス

一 戰鬥ノ處迄モ教道ノ其目的ヲ達セルトモ幾分カ無理ヲおスルニシテ
無理ヲおシテ而シテ満足セント欲スル其方法及具準備參考トス可キモノ
申シ自己ノ信頼ス可キ所ヲ定メ可キ前項後臆中機變ノ作
ル表、如キ實ニ良好ニ参考物トシテ職、昨年七、八、九、十、月、同、同、同、
シテ稍粗雑ニモ作ラシメ又甲壁等ヲ一見シ得ベシ側面圖ヲ作ラシ
メテ、蓋シ市職ニ是等、係、艦橋、於テ指揮ヲ執リ、之ニ教導ノ損
害、侵水ノ結果ヲ大略推知シ、斯ノ傾斜ハ、發砲ヲ防グルニ至ルヤ、
斯ノ侵水、艦ノ生命ニ危険ヲ及ス、又、等、關シ自信ヲ得ントスル
リ自信ハ、漫然得ベキモノニ其準備方法及具參考物ヲ俟テ然ルベシ
モノナシハ、誰シモ適當ニ方法及具參考物ヲ備エリ、事ヲ望ム、戰鬥
準備ノ要訣ナリトシ、再々戰鬥準備ヲナス、此、之、然、レ、也、
ハ、之、免、シ、カ、論、材、料、ノ、不、足、也、ハ、明、シ、テ、如、何、ト、モ、可、キ、然、レ、モ、又、施、ス、所、

手版ノ種々度更シテ試ムル必要モアリ其後藤中機界士ノ調装表ノ如ク
熱心其手版ヲ盡シテモナリ斯クモレハ到底進歩ノ影ヲ見ル事能ハレ可
一磁石通信機ハ毎中ノ兵檢於テ是レガ研究練習ヲお共本ガ充
ナル満足ノ域ニ達セズ昨日ノ成績表ノ射距離千二百か千三百トナリ現
タル如ク、後ラニ之ヲ看過スルハ永久ニ改選正スル時機急カ可シ其他
細本ニ訓練方法ヲ講シ置クノ必要アリ又特ニ砲塔内ニモルコトニ製傳話
信管ノ余レ置キタルモ未ダ感ラズ速カニ裝備スルヲ要ス
一彈丸ノ膛中爆発ニ付テハ昨年経験スル所ヨリ其信管ニ原因スルカ砲身
ノ熱ニ依リカ技術家モ亦判知スル所ニシトモ信管ハ已ニ改造サレタリ
故ニ坊上ノ発砲ノ際必ズ起リ可シ砲身ノ熱ニ昇騰シテ防グノ手版ヲ講
ル可ラス、是レガ爲メ本磁石通信機ノ昨年八月十日以來蛇管ヲ用
砲身ノ海水ヲ注射シテ冷却セシムル事トナリ其他六手砲モ亦合格ナレ得
ル方方法ヲ余レ置キタルモ今日未ダ其設備不完全ナル事職ノ聊カ

不満感^{ガレ}所^チ、想^フ、是^レが全艦隊^ニ起^リタル事^ニ、アラバ^ンテ^ノ事^ニ、
 本艦^ノ敷島^ノ朝日^ノミ^テ起^リ冷^シテ^ノ手^ヲ改^メ施^スモ^シ善^シ施^サル^モ妨^ガ
 不^トノ觀^アリ^カガ^ハズ^ニ、因^ルレ^バ是^レハ再^テ輕^視ス^可キ^ニ、^アラ^バ本^日直^ニ
 設備^ニ着^手セ^シム^可シ、不^完全^{ナル}モ^ト、急^ニ修^ムレ^バ優^ニ事^ニ善^ニナ^リ
 時^機許^サレ^バ不^取敢^不完^全ナル^モシ^テモ^シ備^工漸^時具^ノ改^善ヲ^圖ル^可
 可^シ、今^レ後^ニ試^験ヲ^為ス^ル時^機餘^リ切^迫リ、明^日ニ^モ教^艦
 米^祝モ^直ニ^赴カ^ル可^ラズ^ニ、乃^チ萬^事急^速ニ^旨ト^シテ^モ準備^ヲ為^ス可^シ
 一、藥^筈ハ^注水^ノ準備^ニリ^テ要^ム、^為時^機見^テ一^々各^砲之^裝填^ヲ試^ム
 可^シ蓋^シ其^大小^ノ俯^リヲ^不合^ノモ^シレ^バナ^リ
 一、前^部セル^{ター}デ^キニ^テ所^砲揚^機、鉄^鎖、上^下陪^音烈^ヲシ^テ号^ス
 今^レ坊^ガル^{コト}、勢^カカ^レル^坊、是^レヲ^麻索^ニ換^テシ^テナ^リ
 一、本^日係^砲々^員、試^問中^ニ、係^定之^艦橋^ヲ、ノ^距离^ノ号^令増^加
 修^正シ^テ射^距離^トス^ル事^ヲ知^ラル^者セ^アリ^テ、隊^長ハ^猶ホ^充分^ニ教^育

教育ノ要ツ録

一、本日ノ戦闘用意ヲ巡視セルト十二所砲ノ釣床底牆懸吊用トシテ
左索又ハ其大リノ細クセテ使用セムアリ一索ノ生命全釣床
底ナルヲ以テ今少シ強大ニセテ使用セム可シ
右ノ如キ戦闘ノ用意ノ虞ハ是等ノ事ハ學ヲ教テ可クハ追テ細大ト
ナリ蒐集記録シテ参考ノ在リ田覧セム可シ

二、候補生ニ告グ

諸子モ本艦乗艦シ米茲ニ滿四ケ月、則テ教育規則ニ由リテ試問ヲ行
ハル可キ仍テ市職ハ明日ヨリ三日間各自科ニ就テ自修自得シタル中
モ、中弓ニ三宛、試問ヲ受サレトシ
余考フルニ故亦ナレハトテ或ハ試問ヲ輕視スル者アル所ナリ、アテハ是レ大ニ誤
見リ、諸子ハ將來ニ於テ是レ海軍ヲ組織スル者ナリトテ思ヒ教、有テ
ニ關シテ一意勉勵研鑽、務メ自己ノ配置以外如何ニテトモ穿常研

究スベキハ既ニ度々訓達ニ體テ大ニ輪番ニ結テ配置ニ從事セシメテ中ニ以テ
 其ノ餘裕ヲテ僅カニ面ノ責担ヲおカシテ得ルノミナリ蓋シ敵ニ追々近キ来ル
 ニ伴テ鎮海灣ニテ專ラ者自志願スル術科ニ從ヒ戦闘ノ配置ヲ定メ
 尤モテテ敵ヲ捷眉ノ向ニ控エ下ラホキ平然トシテ試強クおカス事ニ決スルニ
 如何ノ候補生ノ教育ガ艦内ニ於テ重ニせラレんカニ想到シ奮勵大ニ勉テ可シ
 昨年ノ候補生ニ於テ陸基隊志願ヲおシラシメテ其志ハ誰トモ可キ候補
 生ニ定員外ニシテ其本職ハ唯研究ニ限ト覚悟セヨ
 候補生ニ市日ヨリ三週間瑞舟指揮ノ外並直ク其間試強ノおカス
 準備スル所ニシ
 三市日今ヨリ一板操練ヲおカシ各々隊長ハ各隊教育ヲ若クハ雜業ニ
 從事セシメ準備ノ不充分ナル所ヲ更ニ改正ニ可シ合戦準備ハ此後
 爲シ置テ軍事兵檢後具ノ復旧ヲおカシテ可シ

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0453

五月九日 火曜 曇 区々風力一

鎮海港

午前八時。雑業 内膳砲射撃

午後一一五 右全

夜間八直哨兵

本日三日間少尉候補生各科試験ヲ施行ス

海軍

0454

五月十日 水曜 晴 午前 風力一 午後 南西 風力一

鎮西 港

午前 九二〇 内筒 射撃 雑業

午後 一五〇 全右 彈藥庫員 揚 彈標練

言号 秋音古

全 五一〇 雜科 練習号

夜間 八直哨兵

海軍

0455

五月十日 水曜 晴 午前正午風力〇乃至一

午後南東風力一乃至三

鎮海湾

午前八時

内筒的射撃

雜業

午後一時

全右

全五時

内筒的射撃、及雜科練習等

夜間八直哨兵

海軍

0456

五月十日。金環晴。区々風力0乃至1。

鎮西灣。

午前八四五。内筒砲射撃。雑業。信子我者古。

午後一〇〇。上甲板積置ノ石炭炭庫移シ方。

全。三三五。彈藥積置シ方。

夜間八直哨兵。

海軍

0457

五月十三日 土曜 晴 区々風力0乃至1

鎌倉海

新 八〇四 防火操練 土手砲身射撃冷却試験

施行終了大掃除

午後 二四五 雑業 各隊一二番砲術科講話及

演習

全 五五〇 雑業

夜間八直哨兵

0458

五月十四日 日曜 午前曇 午後雨 備前屋カ下至四

鎮西海

新 九一五 分隊矣 換次ヲ人員調査立テ付ケ

全 一〇四五 禮長准士官以上 訓示其要領次ノ如シ

全 一一二〇 禮長訓示ニ基キ各分隊人員調査ヲ誓

古

手后 一〇〇 禮長各砲ノ照準器矣 換

全 六一四五 天候險惡ノ拜アリ右砲鋪用意ニ任

鋪 七部ノ延ス

夜間八直哨兵

九月十四日艦長訓示 准士官以上於後甲板 鎮海灣

一遍日施行し少尉候補生試問成績就る

一少尉候補生試問成績総括し順次ゴトシ

(一)堀 (二)玉木 (三)山崎 (四)濱田 (五)深澤 (六)後藤

(七)廣田 (八)吉田 (九)猪俣 (一〇)西村

其成績順見れ共進学校卒業成績ト多ク差異ヲ生ズ是レ學術ト実務トノ差異ナリ見レ可シ又各科ノ成績ニ就テ觀望スルニ自己ノ配置ニ在リテ一般ニ良好ニシテ配置以外モハ不長ニカ如シ是レ免角免シ難ク現象ナシモホ布職ハ妨傾向ヲシテ覺カサナラシムルカ否ノ屬訓示トシカ如ク少尉候補生諸氏ノ今日ハ実ニ第一期第二期練習ヲ混合シテ亦モテハ自己ノ配職務外トモニ餘暇アル毎ニ研究少シモ境ハズ一刻モ早ク艦務ヲ全致シ習熟スル可ラカ一各科ノ成績ヲ通覽スルニ大体於テ良好ナリ然レモ是レヲ棄置スル

已ニ四月餘ヲ経過スル者ノ試問成績トシテハ猶ホ聊カ遺憾ニキ
 然レテモ少尉候補生ノ当然熟知スルモノト思考セラレ問題仮ニ速
 カニ對スル市鑑、汽機回転数、如キモノモシテ尙且ツ完全ニ回答セラレバモ
 有リ是レ皆不注意致ス可キ故ニ今自試問右種僅カニ五題ヨリト
 免レ諸子ガ今後注意研究ヲ促ス嗜好ノ材料トシテ自今今自
 試問題ニ鑑ミ艦内ノ如何ナル事物が肝要ニシテ如何ナルモノニ注意ス
 可キカヲ考案シ研究ス時モ怠ル勿ラシキ事ヲ望ミ
 一試問科目中文筆ノ試法ツ以テ或ハ中學校ノ具レト全視シ意外ノ
 感ツ為モシ考アリシナラシ然レモ余ハ基本長トシテ諸子ヲ教育スルニ當リ文章
 ノ試法ツ以テ甚ダ必要トスルモノナリ、夫レ文章諸子ノ將來ニ於テ必須ノ
 武器ナリ、假ニ彼屬將校ヲ進シテ少尉長等トナリ砲術長トナリ水雷長
 トナリ航海長トナリ或ハ各課トナリテ所見ヲ提シ或ハ諸計畫等ノ場合
 ノ如キ自己ノ腹藏ノ凡テツ亮揮セントスルニ於テ缺ガ可キモノナリ是ノ故ニ余

殊更ニ文筆ノ訓練ヲ施シテ之ヲ獎勵スルト今時ニ其才ヲ知リテ考課
表上ノ系考ト爲シ以テ將來諸子ヲシテ右適應ノ職ヲ得セシムントス
事

一、分隊長事務ハヤカ分隊長從屬トシテ分隊長トシテ尤モ必要ナルモシ
テ今ノ時代ニ於テ能ク習得スルヲ要ス、又艦長ノ候補生ガ已ニ直接分隊
長ノ補佐ト爲スモノアリ而シテ一般ノ人事ノ關係ニ事項尤モ重要ナリ
且艦長ノ過失ノ爲リ從來、艦長ノ分隊長等ノ所罰ヲ受ケル例
少カズ而シテ其唯調査ノ完全ニ因ルモノニシテ其ノ内容ハ分隊長等
存スルハ是レガ執務上最モ重要トシテ煩重トシテ要ス殊ニ叙勲具申
ノ如ク一度語マレ復タ挽回スルニ途ナレ斯ノ如クシテ今日此時或ハ諸
例則ツ繕ツテ熟読シ或ハ先輩ノ人々ニ教示ツテ仰ガテ勲勵尙モ忘ル
可ラズ

二、本日ノ分隊長候補人員調査ニ就ル

一、今ヤ本艦隊ノ戦闘準備ハ無限ノ些細ナル事項ヲ臨クノ外悉ク完
 成セリ次デ起ルベキ準備ハ即チ人共自身ニ在リテ第一着服装ヲ蓋シ
 全圖ノ戦闘服装ニ凡テ事獲ナラシ故々今日ハ突ク此ノ服装ニ於テ
 分隊ノ兵檢ヲ施リシモタルモシテ戦闘ニ從事スル人ノ準備ヲ見タ
 ル方凡ク傷痍ハ毛類ノ障害ニ依リテ治療ニ困難ヲ感シ汚物ノ滲
 入ニ由リテ腐敗ヲ招キ易レト聞ク是ノ故ニ戦闘時ノ服装ハ可及的
 清潔ナルヲ要スルヲ以テ事業服ハ其ノ恰好ノ性能ヲ具備セルモノト
 信スルノ服装ノミニ止ラバ具身軀ヲモ清潔ナラシムルヲ良シトスルヲ以テ
 時概許ラハ或ハ入湯セシムル事有レト下士等以下於テ或ハ未ダ此
 ノ理由ヲ解ヤサルモノアルヤウヲ以テ各々隊長ヨリ具シク之ヲ説明アララキ
 シコトナリ

従来余自ラ右ノ如ク心掛ケテ忽チモサリシト云ヒ昨年八月十日以後
 多クノ軍醫官等ノ言ヲ聞キ具ノ持ク必要ナルコトヲ認メ今日殊更ニ

訓示をせし置けり

一 服装に記章の頗る大切なる事、訓示をせしかば特々事業服に於て下士ノ記章の如くは最必要ヲ認り故に本員特々隊長トシテ調査せしむるに遺脱せずカラシキ事ヲ望みたり

一 人員調査は本艦に於て度々施せしむるに他艦に於ては多ク之をせしむるに於て方法に余主義トシテ部下ノ言語教禮規律動作ヲ全時見し事ヲ得且つ隊長ノ像ノ訓練が果シテ誤り無う其部下一般由り行ルヤ否ヤヲ認識し得ル唯一ノ良法ナリ故に余特々是之が施行ヲ敢テスルナリ抑も目下は隊長おん事繁多シテ自己ノ意ノ如く其部下ヲ教育せしむるに於て幾分か欠く処アルベシト雖も隊ノ煩カル以上其責任又重大ナリト云フに部下ノ訓育せしむる程尤も興味深キヲ感スべし余ハ思フに隊長が部下ニ對スル指導上ハ為幾分か余馳んか如シ願うハ餘

暇アノ毎々各隊教育ニ必擧ゲ或ハ講義ヲ試シ或ハ訓示ヲ重シ不
欺際特ニ從順ノ威ヲ以テ重要ナルモノハ亦一任ニ據ル可キ勿ク是
リトモモ軍人ノ態度ハ好シ良キ必要ナレバ右令隊長ノ態度ト是
レカ理解ヲ彼等ニ與ヘ更ニ彼等ノ腦裡ニ深ク浸ラセシメ永久ニ
忘レサシムルニ要ム鼓吹ノ深刻ナルニテ意陶益々彼等ノ
軍人トシテノ真價ヲ大クラシメラレシムルヲ希望ス

0465

五月十五日 月曜 晴 区々、風力0.3至1

鎮海湾

午前七五二 大孤山丸より石炭搭載開始

午後八三〇 右終了

午後 入場許可なし

夜間八直哨兵

石炭搭載成績表

成績順 分隊 人員

開始時刻 所要時間 搭載量 一時間 全平均

一、	才三隊	七〇	七五二	八三〇	二八分	四五噸	九六四	全上
二、	才三隊	六二	八二五	八五〇	三二分	全右	八四四	全平均
三、	才四隊	六三	八二五	八五〇	三八分	全右	七一〇	
四、	才四隊	六九	八二五	八五〇	三三分	全右	八一八	
								三三三七

0466

五月十日、大曜

箭曇霧務、区々風力〇乃至一

午后晴

南西風力一乃至二

鎮海湾

箭九〇

内筒砲射撃

四等水兵彈藥庫操

練

雜業

信号機習古

午后一五

内筒砲射撃

雜業

夜間八直噴兵

海

軍

0467

五月十七日 水曜 雲曇 晴 南西風力一五至二

鎮海灣

午前八五八

合戦準備次ニ對射標練

今二二三

標練止次ニ對射準備復日

午後一一五

上甲板石炭ヲ炭庫ニ移シ方

夜間八直哨兵

海軍

0468

五月十八日 木曜 晴、区々ノ風力0乃至1

鎮海湾ノ

午前 九一五 内筒砲射撃、雑業、信号機台古

午後 一一五 右全

全 五五五 上甲板石炭ヲ炭庫ニ移シ方

夜間八直哨兵

海軍

0469

五月十九日 金曜 晴 午後雨 風力0-1

徳島港

午前九時 以筒砲射撃、雜業

全一〇時 韓國派遣大使伏見宮博恭王殿下

海軍将校ノ格賞格ヲ以テ司令長官

海軍将校ノ格賞格ヲ以テ司令長官

海軍将校ノ格賞格ヲ以テ司令長官

所是艦

全一二時 艦長役員ノ次ヲ准テ士官以上ノ訓示アリ

其要領次ノ如シ

午後一五時 以筒砲射撃及雜業

夜間八直哨兵

海軍

0470

五月十九日 禮長訓示 儀員 於後甲板 鎮西海

(一) 伏見宮博恭王殿下 今因韓國所被遣、途次本旨

當港へ濟立寄遊ハサレ本禮へ御末禮在ラセラレタリ、

殿下ハ我が三望乘員ノ風ニ熱知セシ如ク昨午六月六日

本禮ヲ御出征遊ハサレ再末ニ香原隊長トシテ熱心ニ

職務ニ服サレ給ヒ特ニ八月十日旅順口沖海戦ニ勇

モテ御奮戦ニ遊ハサレ其レガ為メ御轉勤

在ラセラレタリ、今々殿下ノ御負傷モ今快癒シ

登々御壯健ニ英姿ヲ辨スルヲ得タリ、吾等一同ノ

大ニ喜ブ所ナリ、殿下又下士以下ニ對シ茲御某

子科ヲ賜フ下士以下儀代一等兵曹ニ渡サレ優渥ニ

御意畏レト言フ中々思ハル事共ニ御感後

天恩ニ存御勵ス可シ

(二) 敵ノ情報並ニ其ト對テ覺悟ニ就キ

一 種々ノ方面ヨリ情報ヲ綜合シテ敵ノ去々十四日其滯
在地ニホシゴエテ殺シ代ヲ送ニ就ケル事。事實
ナルガ如シ其ノ果シテ秋ガ艦隊ト決戦ノ目的ヲ以テ代
進セムノカ但シハ尙ホ準備ノ為メ移動セルノカ
疑問ニ屬シ且ツ仮ヒ決戦ノ為メナリトスルニ該地ヨリ
吉海峡ヲテ十海里速カク以テ直航シテ一週ヨリ要ニ
途中ニ於テ載炭等ヲ為ス更ニ選カレバキヲ以テ船々
相見ル迄ハ尙ホ多少ノ時日ヲ要スバシト云々
角敵ヨリ後ニ於テ決戦ノ機到ルベキハ一同覺
悟シテ然ル可キ事ナリ。

一 本艦ガ敵ト對テ覺悟ト準備トハ既ニ完成シ其
等ハ一日モ早ク敵ノ来ラムコトヲノミ待テキヤ在リ固ヨリ

誰と相人會スレバ直之ノ粉碎全滅スルニ熱心ニモ高
 訓示ス可キ事有り曰ク過日ノ操練ニ當リ本職親ク
 中下甲板ヲ巡視セルニ發砲ニ従事セル隊員ハ凡テ
 熱心操練ヲ為セ共其通信法ニ至テハ所カ遺憾
 ナシ能ク、騷擾ハ其才一ニシテ特ニ炊事ヲ為テ主厨ヲ
 以テ甚シトス抑モ艦内通信ノ緊要ナルニ従来屢々
 訓諭セカク傳令者ハ是カ為テ其ノ咽喉ヲ涸シ
 熱心ニ耳ヲ傾ク、而モ厨業者ノ騷ガレキ為テ妨ゲ
 テ通信不能ナリトモ遺憾モ亦甚シト言フ可シ、
 凡ソ一艦ノ乗員トシテ孰ニ従事スルニハ其職務ガ
 直接砲火ニ預ラザル主厨ノ精キ者トモ精神ニ於テハ
 全ク主厨ノ精神ヲ以テ熱心ニ炊飯料
 糧ニ務メ水兵・機関兵等ノ駄問中ノ精・副元

之ヲ其ノ賜トス。以賜ヲ缺ガ故ニ自然無駄口ノ聞
 キ下ノ下トナリ二人ノ三人トナリ其声ハ延テ騷擾ヲ来シ緊
 要ニ艦内通信ヲ妨害スルニ至ルナリ厨業者一般ノ
 猛者ヲ促ス。
 又砲員ノ中ニモ亦操練中猥リニ饒名ヲ弄スル者アルヲ
 認タリ。是レ烟ヲカシ操練ニ精神ノ籠ラセテ示スル
 ニシテ其砲ノ一番ノ教育良カラセヨル。夫レ砲ノ
 一番ニ其砲員全体ノ長ニシテ部下ノ訓練上最
 親近ナル責任者ナレバ部下ノ人々ニ精神樂々
 偶像者ヲ養育セザラズ事ニ務ム可キナリ。即チ部下
 ニ不良ノ行爲有ラバ其最ニ傲カク釣ク迄モ可責ニ
 訓諭シテ而シテ改後ノ實ヲ身ダシム可ク彼レノ怒
 恨ヲ得シ事ヲ恐レ徒ラニ傍觀ヲ不問ニ附シ去ルガ

如き軍人ニアルマジキ卑怯ナリト知ル可シ。斯クノ如クニテ
一番ハ責任ヲ以テ甚ク部下ヲ教育シ得莫ハ一番ノ命
ニ統ヒテ各々其職ニ熱中スルバ何ゾ無益ノ言語ヲ吐ク
暇アリシヤ各自々有セントソツ望ム。

下士隊員散ッ命ジ律令以上ノ訓示、

(一) 今統莫。訓示シタル事項ノ中甲板以下傳令附近ノ
騷シキ事ハ各々隊長ニ於テ其ノ判断配置ノ旨ヲ感知
ラザル者モアルベケレバ是ハ主トシテ中下甲板艦長
分隊長其他中下甲板ニ在ル士官ニ望ムテ其ノ嚴
格ニ監視ノ下ニ充分ニ好成績ヲ得ントスルニテ
又軍医長主計長モ中下甲板ノ靜肅ニ関シテハ
甚ク注意セラレシム事ヲ希望ス。

(二) 過日日光甚暴風ノ甚ト出礁セシガ幸ニテ離礁シ

昨日独カヲ以テ其以矣ニ致ツキ、其咄噤當時ノ様ヲ
 聞ク風波ノ烈シキハ豫メ推知セラシク其ノ準備トシテ
 鎖鎖ハ已ニ古節ニ伸バセ渡艦ニ矣火シテ由ナレバ
 朝五時頃風力倏リ加リ突鎖後退ノ知ラレザリ間ニ
 横浪ヲ打込ム波浪ヲ以テ始テ其咄噤セリ知リシハ
 突ク四面暗黒降雨ノ高ナ陸地ヲ識別スルコト能
 ハザレシ依ルト言フ、
 余ハ右ノ坐礁ニ就キ特ニ諸子ニ対シテ希望セントスル
 有リ、凡ソ荒天ノ場合に於テ或ハ鎖鎖ヲ伸シ或ハ
 汽鐘ニ矣火シ其他萬般ノ準備ハ各艦ノ等シク
 行フ所ニシテ而モ尚ホ時ニ申鎖咄噤等ヲ為スハ甚
 準備獨其分ノ間始テ不可キ所ナキアラザルカ一艦ノ
 責任者先艦長ハ、終日終夜天候ニ注意スルハ方道ニ

ナキトモ此時其時機ヲ見テ休憩スルノ止ヲ得ザレバ
 其時ハ隘ノ安全ヲ直將校ニ任シテ少シ睡眠
 就ケル間ニ直將校ハ天候更ニ険悪ヲ増シタルモト
 思ヒシニ枵ラズマダ此位ナラハ宜シカレント想像シテ隘長
 ヲ覺スル忍ビズシテ其終ニ至リ置キタル處ニ遂ニ啖
 噍ノ不幸ニ陥リタルモアラハ此ノ瞬間ニ於ケル僅ク先
 放擲ガツノ不幸ヲ豫生せんモト云ハザルヲ得ス余ノ希
 望ハ則チ此所ニ在リ斯ノ知キ場合ニ在リテハ些少ノ遠
 慮ヲスルニサカシテ直チニ隘長ヲ覺シテ其處置ヲ作
 グ可シ又隊メ隘ノ安全ニ関シテハ寸毫ノ注意ヲ起シ
 處置ヲスル格テズシテ直將校ノ命ヲ得ル範圍ハ準備ハ
 隊メ爲シ置カムコトハ余ノ尤モ喜ブ所ナリ
 曾テ余ガ後田隘長トシテ横濱碓泊中経験スル可

あり當時カニ三計りて地ノ風吹キバアリレガ風向俄然西ニ
 変ジ強風トナリ錨味ヲテ殆ド平遠ニ衝突セリトセシ風
 雖莫火ヲ令スト速ニシテ具ツ受令後僅カ十五分間シテ
 航進カヲ得ス為テ不幸ラ莫ルヲ得テ依テ過日
 田ノ疾ケカリレ時ノ狂意ハ余ガ竟田ノ走錨ノ怪駭ア
 ニ依ル又過日早申錨ノ際本艦ノ衝角ヲ碎ケ
 得ルモ亦其洩雖莫火ニ依ルニシテ當時余ハ本艦
 ノ錨鎖ヲ伸シテ九節ト為シ奇ハ形勢ニ慮ジテ十一
 節迄伸シ得ル所存ナリキ又艦尾ノ小蒸汽艇
 水雷艇ハ風ノ強烈ヲ逞ムルニ先ケテ莫火セシメ
 又指揮ヲ兼ラシメ遂ニ繫留ニ堪エザバ一時地ニ風波ヲ
 避ケシム可シ又水雷艇ヲ繫留スルニ其ノ司令塔ニ索ヲ
 取ルル尤モ良カラス蓋シ該部ハ意外ニ脆弱ニシテ

之ハ最後ノ繫留所ナル之ヲ用ユルニ至ラントセバ先
 避難セシムルヲ最良法トス要スルニ出来事ヲ未然ニ防
 遏セト欲スルニ周到ニ注意ニ在リ候ハ艦船ガ
 近ク投錨ス時ハ直ニ其距離ヲ測定シ置カキ或ハ其
 ノ距離ノ開解シテ彼我ノ艦首方向・錨鎖ノ長サ等ヲ
 考フルガ如キ或ハ其事ニ際シ直ニ汽笛ヲ命ズルガ
 如キ其地晴雨計ノ示度ハ其ノ時刻ノモノニテラス
 以前ノモノラス調査シ比較シテ報告スルガ如キ凡ソ
 急ニ注意シ肝要ナリト云々余ハ諸子ガ相
 互ニ諸事萬端ニ對シテ此ノ法意ヲ急ラレザ
 ラム事ヲ希冀シテ止マザルナリ尚此注意
 ニ関シテハ思フ所ヲ書キテ之レハ後日蒐集
 シテ諸子ノ系考ニ資セントス

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0480

五月二十日 土曜 午前雨 午後晴 区々風力0乃至1

鎮海港

午前 七、四、五 砲術科雜業及分隊教育

午後 二、〇、〇 内筒砲射撃 雜業

全 五、二、五 兩陛下皇太子殿下 予射劍翼傷

者所射劍上之序下賜ノ所業子科ヲ

授上子之終ヲ禮長訓示ヲ其要領

次ノ如シ

夜間八直噴兵

0481

五月十日 艦長訓示 統領 松田中校 鎮海灣
 一 昨幸 新到負傷者 對之 陛下 御菓子
 料授與 次々 等水兵 金田友次郎 呼出
 二 等水兵 金田友次郎 六十以下 砲身冷却用
 供之 恰好 唧筒 案出 其意匠 簡單
 三 最 实用 故 余 此 器 採用
 且 汎 海軍 一 概 採用 之 様 竟 見
 提出 之 柳 人 間 之 意 匠 最 初 概
 兒 戲 的 之 類 漸 々 改良 施 之 遂
 完全 欠缺 之 事 得 之 而 意 匠 依 之
 企 之 所以 其 中 要 之 認 之 製 作 之
 世 益 益 セントス 熱 心 之 結果 針 十 五 金 田 如 之
 所 謂 此 熱 心 者 一 人 之 其 意 匠 成 之 唧 筒

ハ一分間ニ五秒ニ合ノ水ヲ吐出シテ半以下ノ純身ハ
五秒乃至十秒ヲ以テ充分ニ冷却セシメ得んキタルヲ
實驗セリ依テ余ハ茲ニ其熱心ヲ嘉知シ私ニ嘗テ
笑フ。他ノ乘算同ニ是レニ鑑ミテ萬事斯ノ如キ
熱心ヲ以テ處ニ幾キガ高メニ必要ヲ感ズレバ
直ニ試造ヲ企テ既ニ有ルモノニテ不良ヲ感ズ
レバ苟クモ改良ヲ圖リ以テ庶事事物ノ進歩
尽カセムコトヲ希望ス。

0483

五月二十日 日曜 晴 新島 午後南西風力0乃至3

鎮崎湾

午前 七、四五 内筒砲射撃、雜業

午後 〇、二〇 入浴、遊戯、許す

全 五、二五 上甲板石炭移シ方、雜業

全 五、一五 銃隊、駆逐隊、艇隊出港、準備シ支

隊、糧食火セリ、旗信アリ

全 七、二〇 今夜出港、五ノキ、銃隊、隊号順序ニ

従ヒ出港、駆逐隊、艇隊、跡ヲ出港

セリ、集念矣、轉崎、代東十淫ノ旗

信アリ

夜間八直哨兵

海軍

0484

五月廿一日 月曜 晴 南西風力三乃至四

鎮海灣

新 八四五

所員心得同各誤明 及 雜業

手后 六一五

雜業

今 五二〇

禮長準吉良以下訓示其要次如シ

夜間八直哨兵

本自禮内縣令傳達ノ確實ヲ期スル為メ
各部ニ通信試驗成績表ニモテ
セシメ毎軍事兵檢又ハ操練ノ際各種
号令ヲ發シ通信機關ノ良否及傳
令員ノ熟否ヲ知悉スルノ用ニ供セリ
其成績表ノ原型及通信機關系
統表ノ別冊ノ如シ

賞位令置

甲辨ノ表 明治三十年 月 日 號 令 賞 状 成績 表 軍 艦 三 号

後 令 位 置

時 刻 一 号 令

0486

0487

第三表

明治三十八年 月 日

砲火指揮戰鬥操練號令傳達成績表

軍艦三笠

砲兵隊
射撃隊
及別隊令
及別隊令

備考 此表ハ艦橋ヨリノ命令ヲ下シ若クハ受継タル時其傳達成績ヲ各分隊毎ニ記入ス者
ニシテ法律等令ニ誤リ甚トシ其指針赤丸ノ印ヲ附シ誤リアル者ハ其後号令記入ス可シ

刻

三島三島

明治

年

砲台指揮

鐵田操練

三島

三島

三島

三島

三島

三島

三島

乙第表一

明治三十年

月

指揮

戦用操練號令傳達成績表

軍艦三笠

各分隊	橋号令	艦座
第一分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第二分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第三分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第四分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第五分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第六分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第七分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第八分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第九分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第十分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第十一分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第十二分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第十三分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第十四分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第十五分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第十六分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第十七分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第十八分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第十九分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷
第二十分隊	前砲 中砲 後砲	右舷 左舷

陸令
海令
軍令
陸令
海令
軍令

乙 號表三

明治卅八年
至

月

日

(指揮)

彈藥通路其他通信試驗成績表

軍艦三笠

月
日

0491

明治廿八年 月水雷科通信試験成績表

軍艦三笠

時刻	通信場	受令	正誤
右艦橋	前部	受令	誤
燈	右艦橋	受令	誤
電	右艦橋	受令	誤
機	右艦橋	受令	誤
室	右艦橋	受令	誤
令	右艦橋	受令	誤
塔	右艦橋	受令	誤
右艦橋	前部	受令	誤
電	右艦橋	受令	誤
燈	右艦橋	受令	誤
機	右艦橋	受令	誤
室	右艦橋	受令	誤
令	右艦橋	受令	誤
塔	右艦橋	受令	誤
右艦橋	前部	受令	誤
機	右艦橋	受令	誤
室	右艦橋	受令	誤

明治廿八年 月 航海科通信試験成績表

軍艦三笠

號令	日	時間	後受令	最上艦橋	司令塔	右司令塔	前導通路	舵室	前導舵室	司令塔	後艦橋	前導通路	舵室

0493

五月廿二日、艦長訓示、準備完了、於前艦橋、練河灣、
 一、敵情漸々興味ヲ帯ビ形勢日ニ活索ヲ呈シツアルヲ以テ
 吾等ガ彼ノ第二艦隊ト一大決戦ヲ為シ得ルニ蓋シ近々ナル
 ヲ信ズ、而シテ本艦ハ今ヤ諸子ノ熱心ナル尼カニ依リテ戦
 闘ノ準備ハ見事ニ完成セリ、殊ニ戦ノ支配者タル砲術
 於テハ其ノ進歩著シク砲員ハ敵ノ全滅スベク充分ニ訓
 育セラレタルヲ見テ余ハ茲ニ副長、砲術長、及ビ各隊長其他
 砲台附将校ニ對シテ大ニ其勞ヲ褒トス、
 一、昨日熊野丸艦長來テ對テ本艦ノ諸準備ヲ見
 ムコトヲ告ル、則チ余ハ示スニ諸子ガ熱心ノ結果ニ成
 レル諸表ヲ以テス、該艦長曰ク是レハ凡カ、斯ニ多ク
 ハ林ガ主幹艦隊ノ先頭ニ立チ最モ多ク集彈ヲ
 受ムルニ敵ヲ屈セズ、能ク後續ノ諸艦ヲ率テテ

敵艦隊全滅ヲ遂行シ得ベシト然リ余モ亦思フ、
我ガ三望ノ難關ハ實ニ是等ノ諸準備ニ依リテ見
事ニ通過シ得ラズキヤ。特ニ砲莫心得問答ノ如キハ
積テ一冊子ヲ爲シ他日砲術練習所ニ於テハホカド
ブツト爲スニ適ス。其他通信連絡ノ覽表ノ如キ
或ハ艦体傾斜ノ如キ変更其他ノ表ノ如キ艦内ノ
事物今ハ悉ク一目錄然ク一覽表トシテ現ニモハ
是ニ依リテ吾等ハ優ニ敵艦隊粉碎ノ現實ヲ期シ
得ベシ。而シテ是等ノ表紙ヲニ空手ヲ守ラレハ事
業々實際場合ニ應ジテ活用スル處アラザル可ク又假
ハ通信装置連絡ノ如キ損傷ノ爲メ其ノヨリ他ニ変
更スルニ當リテハ該所在附近ノ者ハ艦長ノ指示ヲ俟
タスレテ適當ニ處置スルノ要アレバナリ。

0496

一、今回、鞍馬中將校ノ職務事故代理法ヲ詳細ニ
 規定セリ。昨年以來簡ノ事ナルモ、此度ハ副
 長ノ希望ニ有リ、且、昨年比シテ損害ノ多クナルベキモ、
 想像セラルニ由リ、殊更ニ制定セルナリ。然レモ諸子ガ萬一
 ノ際代ニ可キ職務ニ對シテハ、亦其レ々々研究シ置カ
 レ事ヲ望ム。是レ諸子ノ技量ヲ疑フニアラス人ハ萬
 能ナラザルヲ知レバナリ。又斯ノゴトク規定ニ當リ時ニハ
 要ニ慮ジテハ、單ニ其附近ノ者ヲ以テ代ラシムル事有ル
 バ、且、何人トモ、特ニ重大ナリト思考スル場合ニハ
 規定以外ニ既レテ自ラ赴クモ妨ケザルモノトス。
 一、西征、鞍馬ハ至難ノ鞍馬法ナリ、兼テ其操練ニ於テハ
 是レト全様ノ事ヲ為シ来リレガ過日ハ特ニ名稱附
 其ノ方法ヲモ決定シテ施行セ、高ホ益々研究セ

ラレハ事ヲ望ム

一、補索員ノ採ル可キ處置ノ決定方策副長提出
セラレタリ、其内容ノ是非重クテハ多ク、運用術ノ所
題ニ屬シ今然ニ決ス可キス、使ハ大橋ノ下部破壊免
時其側ル、防ガガ有テ鋼索ヲ以テ後司令塔ト共ニ
捲キテラテリル、以テ之ヲ緊張ストアレドモ余ヲ希望
ハ然ラス、現ニ昨年八月古ノ際ニ於テモ下甲板ノ鋼
索ヲ出シテ後司令塔ニ捲ケトリ、雖令テ其ヘシノミテ
希望ハ鋼索ヲ以テ橋ト司令塔トヲ緩カシ捲キ
附ケ其破壊免ル橋ノ下部ヲ甲板迄延下セシムニ在
キ、而シテ此ノ二種ノ方法ノ何レが果シテ有効ナルカ現
實ヲ見テ初メテ証ニ得ベシ、蓋シ斯ノ如キ事實ハ
想像以外ニ逸シ易クレバナリ、又鋼索ヲ切斷シテ

0498

使用スルトアレトモ鋼索ノ切斷ハ困難ニシテ時間ヲ要シ
急速ノ場合ニ適セザル可ク且鋼索ハ復大ニ必要
ナル機會ヲ生ズルモノナリ以テ可及的切斷セザルヲ得策
ナト思考スル又「リギン」ノ豫備トシテ七吋「マリ」ホーサ
一條ヲ使用スルノ件アレバ唯一本ノ「リギン」ナラバ免レ
角ニ本モ切斷スル時ハ側支エラレザル可シ寧ロ
鋼索ノ切目ヲ接續スル緊張用ノ「テール」ヲ備スル
良トス實ハ此種ノ方法トシテ「ワイヤストック」ハ以テ
切斷部ヲ接續スルニ最モ有効ナリト信ズ斯ノ如ク
補索事業ニ就テハ各自ニ由リテ意見ヲ異ニシ其ノ
優劣ハ實験ノ機會アル迄テ未決ニ屬ストモ尤
未何人ニ必要ナル觀念ニシテハ命隊長ヲシテ
此種ノ事業ヲ為サシムトアル可キヲ以テ此ノ案ハ

諸子ノ一覽供ス唯其心ヲ讀マシコトヲ要ス

一、昨夜ヨリ各砲隊ニ十發銃ノ彈丸ヲ揚ゲ置クコトセリ

而シテ裝薬ハ氣候湿度ノ変化ノ影響ヲ受クコト

大ナル以テ豫メ定シ置キタル裝薬ハ可及的最近ノ

討発射ニ使用セザルコトニ注意スベシ是、彈薬庫

ヨリ揚ガルヲ俟タズシテ發砲ノ必要ナル場合カ若クハ

特ニ急射ヲ要シ下方ヨリ揚ガ来ルヲ、間合ハせん

場合等ニ於テノニ使用スルモノトス、

一、柘植ニ等機関兵曹彈丸因塞用トシテ「フエダー」

状ノモノヲ考案ス、兼テ言ハル如ク此種ノ發明ハ其々

益々辨ズんモノナリシテ彼ノ熱心ニ對シテハ合隊長ヨリ

充分ノ賞メシ置カレム事ヲ要シ且ツ上甲板前部教

員ヲ備フルコトト是ヲ可シ、

余諸子ニ對シテ鞆闘スルガ爲メニ最早何壽
 ノ言フ可キコトヲ有セズ 唯見事ニ鞆闘準
 備成ルツ見テ諸子ノ熱心ナルカヲ謝シ諸
 子ガ對敵ノ日益々元氣ニ愈々ノ申ミテ奮
 闘セラレム事ヲ希望スルノコトニ

海軍

0501

五月二十日 火曜 晴 区々風力四五、加徳水道

正午 東経百三十九度五十五分

全 九 五五

哨艦佐渡丸ヲ一敵艦隊見ユ、突線渡

全 九 四八

信到達次、至急出港準備命令アリ、揚錨出港、一才二才四、敵隊續行ス、

航行序列丸ノ如シ、

整艦五機西

千早

三、敵艦朝春日、淡島、長八、常磐、根、高明、對

渡田

整艦三機丸

全 九 五五

原速回轉六十三、合戦準備

全 一〇 四〇

右整備、隊散

全 一〇 五〇

佐渡丸ノ發急、敵艦ヲ誤リ、認ム艦隊ハ

0502

隊定、序列ヲ以テ執行シテ刻敏漢ス

、旗信アリ、

前一二五〇

新隊序列ニ右位セヨノ旗信アリ、

前一二五〇

隊員新隊制服ニ着換ス、

前一二五〇

隊員分隊交換ノ位置ニ整列分隊長ノ

負換アリ、

前一二五〇

才四隊隊、駆逐隊、被隊ハ列ニ解散シテ

前一二五〇

加徳水道竹島ノ北東取東約一哩ニ俟詢ス

前一二五〇

各艦旗艦ヲ一列ニ比テ西ノ列ニ五百

前一二五〇

米突ニ俟詢ス、

前一二五〇

合新準備復旧

前一二五〇

整備同散

前一二五〇

旗信、依リ才一隊隊才一才二十隊ノ

0503

豫先中三對隊錨地移レノ命依ノ
尤ノ位置錨地ノ変更ス

艦竹島南水深九尋半底質泥
玉手身南東

全七二五 水雷防禦網ヲ張り次テ水雷艇

防禦

夜同八直哨兵

海軍

0504

五月二十四日 水曜 晴 風力0乃至1

加徳水道

午前 五、一〇 水雷防禦網ヲ収メ釣林ヲ令戦準

備上備下

令 九、〇四 令戦準備次ヲ對尉操練各部通信

傳令試驗及右砲台操練

令 一〇、五三 令戦準備復日

午後 一、一五 内筒砲射撃大平砲員砲術講話聽

聞 其他雜業

令 五、二〇 石炭積込方及雜業

令 七、一五 水雷防禦網ヲ張次水雷艇防禦

夜間八直哨兵

海軍

0505

五月二十日 木曜 曇 區々風力0乃至1

鎮西海

新 五〇〇 起床后水雷防禦網ヲ收メ航海用ニ

固縛ス

会 五二五 釣床ヲ合新準備ノ位置ニ備フ

会 九〇〇 内筒砲射撃ノ及雜業

会 一〇五 釣床ヲ收メ右炭搭載用意

会 一〇二 富士山丸ヨリ石炭搭載ヲ始ム

会 一〇四 右終了

会 四一三 抜銷加徳水道ヲ鎮西湾外ニ向テ

会 五一五 抜銷

位置

老露島南面以西、濠洲島ニ大々吠南面以西、加治島△南東以東、鎮西海

0506

夜間八直哨兵

石炭搭載成績表

三	一	二	成績順
五分隊	三分隊	四分隊	五分隊
六五	六二	六九	六八
全右	全右	全右	全右
一時五分	一時五分	一時五分	一時五分
三五分	二八分	四三分	九二一
六六噸	一三五八		
二二七			
	三三九		

0507

五月二十七日

全曜晴

午前少雨、午前區、風力〇乃至三

午後西風力四

鎮安灣

午前、一〇、四二

入浴、許ス

全、二、二五

天候除、鬼ノ地、正午、右舷、錨、鎖、七、廿、節

延、右舷、錨、ノ、用意、ス

午後、五、二〇

下士、任用、進、級、ノ、申、渡、シ、テ、

夜間、八、直、哨、兵

海軍

0508

五月二十七日 土曜 晴 西南西風 力三乃至五

正午 雲昇 平均四度 七分
東 全 百 三分 度 一分

海上濤柔 了 展望 約 六 浪 高 瀬ノ 動

揺 稍 大 ナリ

全 五〇五 嚴島 敵 二 艦 隊 見 了 無線 電 信 接 了

直 至 急 矣 火 出 動 準 備 了 了 了

全 五三〇 前後 甲 板 積 載 了 了 豫 備 石 炭 中 下

甲 板 移 了 艦 載 水 雷 艇 及 水 蒸 機 台 中 九 了

依 托 了

全 六〇五 校 鋪 出 艦 加 德 水 道 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

加 德 水 道 反 約 了 了 了 了 了 了 了 了 了 了

驅 逐 隊 水 雷 艇 隊 全 部 共 出 動 了

全 六一五 厚 達 十三 哩

0509

新六二〇

合戦準備中 部甲板、石炭、炭庫、入

殊餘、一部、海中、投棄ス、

全七〇五

合戦準備整備次、部甲板、部署、就カシメ

各要員ヲ備ハ各砲ノ火管ヲ試ス、

全七三五

原速十五哩

全七四〇

右悉皆整備セルヲ以テ、部甲板、休憩セシム

全七四三

南兄、茅島ヲ以テ、東ノ東ニ三哩ニ見テ

東ノ南ニ、支針、韓寄ノ北東十哩ノ

地、見ニ向テ

全九三九

對馬三島燈台ノ南々西、石西約十哩ニ見テ

南東ノ南ニ、支針、神ノ島ノ北、方、心

ニ、特定、地、見ニ向テ

全一一五五

艦長、統領、後、甲板、ノ、集、ヲ、奮、勵、的、訓

0510

高。〇、二三

示ヲトナシ、其要領次、如シ。
漸次速カシ、理ニ減ズ之、敵艦隊ヲ行過
ル、恐レアラハナリ。

全。〇、二五

嚴島ヨリ、無線電信ニ依リ、敵艦隊正キ、
位置ハ壹岐國若宮島ノ北方ニ立理ニシテ
針路北東ヲ東ナシテ知ル。

全。〇、三八

敵ヲ早ク発見セシ為メ、南西ノ西ニ隻針
各艦本艦、通跡ヲ進ム、以時再ニ戰鬪
部署ヲ就カシメ、五分間ニシテ諸事ヲ準備シ
敵艦擲彈ヲ裝填セシメ、後々休憩シ
命ス。

全。〇、四七

神島ヲ南ノ西ノ西ノ西ニ見テ西ニ隻
針。

全 一五五	全 一五三	全 一五四	全 一四四	全 一四〇	全 一三九	全 一三二	全 一三〇	全 一五	全 一〇
西ニ走針敵ニ對シ好位置ヲ占ムル爲メ	一戦ニテ各員一層奮勵努力セヨ	旗艦ヲ信ヨリ曰ク皇國ノ興敗ハ此	衛次速カラ十五混ニ増加ス	第一附士ノ号者ト共ニ戦鬪旗ヲ開ク	北西ニ北ニ走針	柔ノ爲メ序列明瞭ナラス	南西ニ走針敵ノ想像方位ニ向テ	西ニ走針遥ニ才五分大戦隊ヲ認ム	南西ニ西ニ走針想像柔ノ中ニ才三戦隊ヲ認ム
								言ハ地莫ク北ニ東ニ進抗スルヲ知ル	嚴島及笠置ヲ、英傑電信ニ依リ敵ハ

0512

一旦逆路ヲ取ル

全二〇二 南西ヲ南ニ変針

全二〇七 東北東ニ変針 敵ト全航シツ彼レノ

先頭ヲ壓迫スノ隊形ヲ執ル此時敵ノ

最近艦ヲオスラビヤ先ツ林ニ向ツテ發砲ス

全二一〇 距離約六千四百メートルヲ右舷ヨリ一齊

射撃ヲ行ヒ茲ニ彼林ノ大海軍ハ開始セラ

レタリ之レヨリ日没ニ至ル迄林ハ終始陣形整然

常ニ敵ヲ壓迫スル如ク運動シ敵ニ大々的

打撃ヲ与ヘタリ此戦闘ニ關スル詳細ナル

事實ハ戦闘詳報ニ詳ラカレバ之ヲ略ス

全二一〇 北緯三十四度九分東經百三十三度九分ノ位置ヲ

北ヲ東ニ變針 樽屋島 同日

高八百

東敵北走セシエノヲ
水雷艇防禦隊置キ
執キ置哨兵ノ次ヲ
警戒ス

0514

五月二十日 艦長訓示 艦員於后甲板

新島地方 露國艦隊進撃の途次

總員ニ告グ爾ヲ一日午秋ノ思ヒテ待テ敵ヲ撃テ云

太平洋艦隊ニ愈々本口ヲ以テ浦塩ニ向ケテ對馬海峡ヲ

通過セントス則チ林ガ聯合艦隊ハ今ヨリ是ヲ邀撃シ

向ヒ凡ソ一時間ヲ経バ彼我相見タル得可シ

無線電信ノ傳ル情報ニ寄リ敵ノ序列ノ先頭ヲ撃テ

撃一復ニシテ其後ニ列ヲ右翼ニ列ハボロクシ撃四隻ヲ

シソウエリキルナワリシ及ハヒテ順ニ主力ヲ右ニ在翼列ハ

ヲオシシ撃ニ後ヲヨラシ世ノアレクアラウララニシテ其後右後装

巡洋艦續行スルル如シ但シ此ノ陣形ヲ戰鬥ノ進行時ノ

状況ニ從ヒテ種々ノ變化ヲ来ス勿論ナリト云ヒ吾等ガ艦

ヲ決セントス敵ノ勢カハ大略斯ノ如キモノナル可シ

情々想フ今日ノ戦實ニ邦國ノ安危ニ関スルノ由

予我此重要は對_ニ於テ天祐ヲ蒙ケテ平素練磨_ニ練
磨_ヲ重_ク不_レ免_ル金能ノ腕ヲ揮ヒテ必_ズヤ敵_ヲ全滅セシメ
ザレバ止_マザラントス願_フ諸子ト共_ニ協力_シ敵_ヲ光
輝_ス凡_ク隊_ヲ得_シコト_ヲ切_ク也云_ス

本日風波穩_クヤカオラス_ニ射擊_ニ困難_ヲ感_ズル_ノ所_カ
恨_ミトス處_ニ由_テ照準_ハ極_クナク慎重_ニ行_ヒ号令_ハ
最_モ明瞭_ニ傳_エ沈_{着_ニ}シ_テ憂_セ狼狽_ス事_{實_ク}
百_{奈_ハ}百_{中_ヲ}斯_ク不可_シ人_{余_ハ}是_レ以上_{更_ニ}何等_ノ
望_ヲ有_セズ唯_{諸_子}ト共_ニ敵_ヲ殲_{滅_ス}ノ_ニ力_ヲ盡_ス破_{壊_ス}
事_ヲ誓_フ公_哉

次_デ艦長_ノ祭_{聲_ニ}應_ジ砲_員
天皇陛下_ヲ萬_歳大_{日本}帝國_ノ萬_歳聯合
艦隊_ノ全_{機_ヲ}祈_リ萬_歳各_々唱_ス

右終リ別長迄負代リ艦長ノ健康ヲ祈リテ
袂別ノ意ヲ表シ各自勇躍部署ニ就ク

海軍

0517

五月廿八日 日曜 晴 西南西風力二乃至三

和浪長濤 展望良好

正午時分 東空 百五度 五十分

全 三.四〇 艦首 櫓 陔 島 之 發 見 不

全 四.三〇 艦 員 起 床 哨 兵 之 撤 之 標 梅 燈 之 格 納 之

甲 板 之 片 附 夕 某 二 對 隊 亦 本 隊 之 後 方

續 行 之 末 也

全 五.三〇 北 之 西 之 變 針 速 力 十 三 哩 卜 下

全 五.五〇 千 早 之 敵 艦 見 之 通 信 不 有

全 六.〇五 南 之 變 針

全 六.一五 大 砲 手 入 并 甲 板 上 諸 田 材 比 附 方

全 七.三〇 南 東 之 東 之 變 針

全 七.四〇 敵 對 配 置 之 執 火 管 之 試 不

海 軍

0518

全 七、五五

連カノ漸次十五哩ト夫 敵國準備完整

休憩

全 八、三七

東 変針

全 八、四七

南 東ニオ五敵隊テオ四敵隊ヲ認ム

全 九、三八

南 東ニ南ニ敵艦隊ヲ認ム北東ニ侵入

行ク又ルカ如シ

全 九、五三

系ニ附テ

全 九、五八

右 整備敵ノ勢力ハ「ボロギ」艦一隻「リコウ」

一世海防艦ニ隻及「イヅル」上「整」一隻ト認

メタリ

全 一〇、〇三

竹島 (リヤンコルド岩) 北東ニ東ニ東約十丈

理ニ見ル

全 一〇、〇八

土中要密既員中下甲枚ニ遊ケシム

全 一〇、一三、 各隊台にビスケットを給す右舷方手

砲台級鋼榴弾を装填ス、

全 一〇、一六、 敵國旗を焼く、

全 一〇、二九、 敵方位置南を東に距離約九千米突、

全 一〇、三一、 東北東を交針右舷方手一斉に試射用意

目標一番艦にコライ一セトス、

全 一〇、三四、 日進先が砲撃を開始ス、イヅムトに東方

に逃走ス、認ム、

全 一〇、四〇、 距敵六九〇米突、右舷一斉試射

開始ス敵艦隊を應砲セズ、

全 一〇、四三、 敵艦隊の降服を萬國信多、揚揚シ

信多を発見し直ちに打方止出命令アリ、

原達十郎に命じて敵艦隊停止命令ス、

毎 頁

全一〇五 南ニ交針之シヨリ針路適宜敵艦隊

降服ニ付敵副旗ヲ下ス

全一〇六 敵艦隊我軍艦旗ノ下ニ標信旗ヲ附シテ掲

揚ス

全一一八 半速次ヲテ速其後漂泊方平砲ニ發射

用意ヲ為テ敵艦ノ裝ヲ動ニ注意ス但

底栓ハ閉キ置ケリ

全一二五 水雷艇砲ニ維等来會次ヲ六四才五

才六新隊衛次来會ス

全一二五三 秋山卷謀山本大尉(信次郎)ヲ率ヒ水雷艇

維テニコライ一世ニ赴ク

全一〇三 八代味間艦長敵司令官ニ去會ノ為

来艦

0521

全一三七

秋山彦謀等敵司令官「五ホカト」少将染

幕僚ヲ連レ帰艦ニ敵将ハ東郷司令

長官ニ面謁シ降服ノ允許ヲ得タリ

全二四〇

右少将等退艦

全三〇五

古平砲菓莖ヲ投キ土所甲七密砲ハ制

規ノ彈菓ヲ砲劍ニ備テ

全五〇〇

八ノ決間艦長退艦 中ノ甲校ノ右炭ヲ

炭庫ヲ移シテテ甲校ヲ洗ヒ掃海燈ヲ

備テ

全七二七

前進南西ノ南ニ定針佐世保ニ向テ

命「依」航海燈及連カ燈ヲ

出ス

全八二〇

四直噴岳ヲ配シ警戒ス

0522

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

0523